



房総の沢は美味しい！

---

房総半島 待崎川～元清澄山 小糸川～三郡山

---

高柳

【日時】 2007年11月24日(土)～25日(日)

【メンバー】 L高柳、山口、大田原、橋本、尾木原ほか1名

毎年恒例の房総の沢シリーズ。今回で5回目らしい。入会希望の西井さんも参加して、賑やかに美味を堪能、である。

11/24 晴れ

前泊した道の駅の芝生は、霜で真っ白になっていた。晴れを予報しているが、余りにも寒くてとうとう沢の季節の終了を自覚する。それでも沢に行くのは狂気の沙汰か？と眠い頭をしゃっきりさせながら、保台ダムまで行く。ダムからは、整備された公園内の遊歩道を歩き出すが、植林地の中でいろいろ道が入り組んでいて、地図もわかりづらく、入渓点まで右往左往。結局「ルート5」をたどって水量の非常に少ない渡渉点から、泥岩のナメを遡る。なかなかのナメではあるが水量が少ないので沢？排水路？といった感じ。それでも徐々に両岸が狭まってきてミニゴルジュを形成している。最後には、突然沢が無くなって壁になるので、右岸側の小尾根から頂上に向けて急登を上がる。手がかりにするところが少ないので、木を頼りに行くが、乾燥しているので、枝がパキパキ折れてしまう。やっぱりここは房総。念のため西井さんにはスパイクを履いてもらう。「関東ふれあいの道」の登山道に出て程なく頂上。元清澄山とは、もともと房総の古寺「清澄寺」があった山であり、云々と看板がある。ベンチで休憩していると団体様が反対側の登山道より登ってきた。早々に下山。去年はナイフエッジの稜線を下ったとのことだが、「関東ふれあいの道」を辿ってから、保台ダム周辺管理会の看板に従い下山。道は明瞭だが踏まれておらず、ドキドキしながら下るもナイフエッジは結局出てこなかった。ダムについてからぼかぼか陽気のもと、懸垂下降&ザイル操作を練習。初体験の西井さんは懸垂下降が面白いです、と目が輝いていた。地元の観光地である清澄寺を観光してから、橋本さんのお勧めの干物屋「塩屋」にて海産物を購入。夜まで仮眠して宴会に備えた。

後発隊と無事合流し宴会に突入。この日食された干物は、さば・イカ・あじ。七輪で直火焼にして、大根おろし&ポン酢でいただく。「特製海の幸鍋」も登場し、ビール・日本酒のすすむ事。まだまだ海水温が高いから脂のりが悪いのよ、と店のおばちゃんたちが言い訳を言っていたが、全くそんなことは無く、皆「旨い旨い」を連発して、6



枚ペロッと平らげてしまった。一気に房総の沢と海が好きになった時間であった。

11/25 晴れ

前夜の余韻の残る幕場を、のっそり片付けて、今回初挑戦の小糸川に向かう。君鴨トンネルを抜けると清和県民の森の駐車場。どこからアプローチしてよいのか分からない為、皆でうろうろするが橋のたもとにある階段から一気に河床に降りることにした。いきなり堰堤に阻まれてしまったが、なんとか巻くことができた。降りた河原は円礫の多い堆積物ばかりの小さな川で、はっきり言ってしょぼい。このままこんなだったらどうしよう、と不安の面持ちの面々。全責任はリーダーにあります、と言って見たものの自分も確信は持てない溪相である。とにかくクネクネと曲がってばかりいる沢を遡る。猿の繁殖地でもあり、子猿のお出迎えあり。あんなに身軽に動けたらいいなあ。徐々にではあるが房総特有の泥岩のナメとなり、キラキラと水面が美しい。小さな幸せにも満足できる寛容な人たちなのである。滝などは全く無いのだが、河床が柔らかいためか甌穴がところどころに出てくる。散在する植林地を縫うように流れる沢。右岸がハングしている箇所もあり、いつ落ちてくるか分からないので一瞬ヒヤリ。懸念されたヒルはいないようだが、なぜか西井さんの手元に1匹だけ。「これってヒルですか？」。

植林地が沢を埋め尽くすようになったらそろそろ源頭である。作業道に出て三郡山に突き上げた。なかなかこのピークにはこられないよね、など冗談も出るが、立派な登山道が付いており、猿の観察と思われる単独の男性が追い越していった。ここからは整備された関東ふれあいの道。ピークを巻いたり巻かなかったり分岐がいろいろあるが、何とか間違えることなく下山できた。道標のある登山道は、民家の脇からつながっているもののなかなか分かりづらい。この後橋本さんのお勧めの七里川温泉に入って、帰京した。

【グレード】 1級

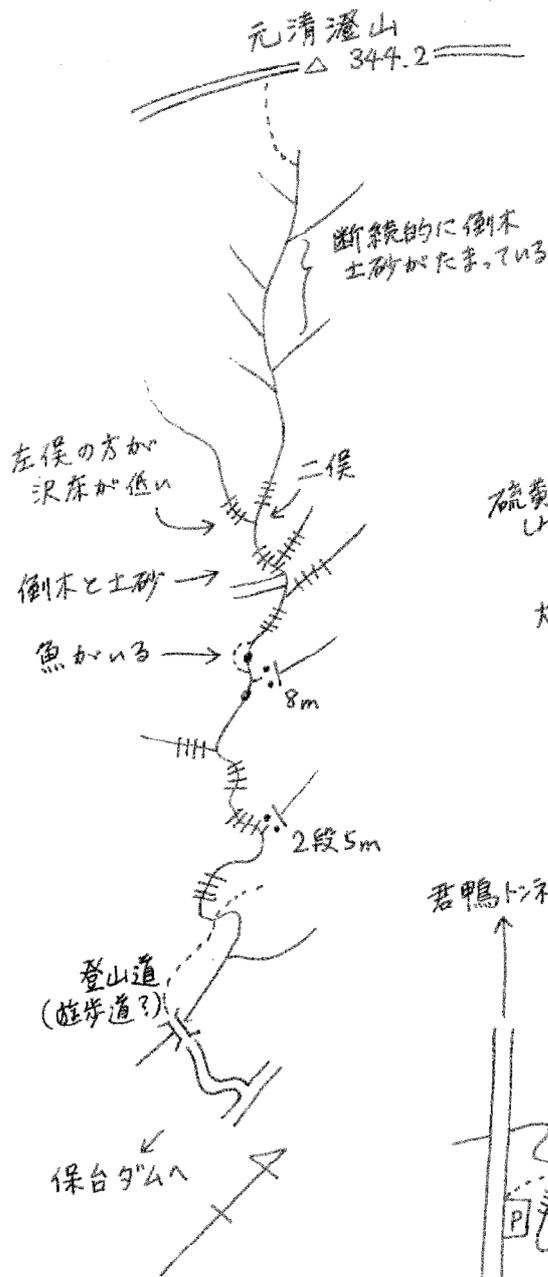
【行程】 11/24 保台ダム(8:45)～頂上(11:10)～保台ダム(13:10)

11/25 清和県民の森駐車場(9:30)～三郡山(13:30)～駐車場(15:00)

【地図】 鴨川、坂畑、金束、鬼泪山

2007. 11. 24  
待山崎川  
L高柳、山口、西井、大田原

2007. 11. 25  
小系川  
L高柳、山口、橋本、尾木原、  
西井、大田原



(作図: 大田原)